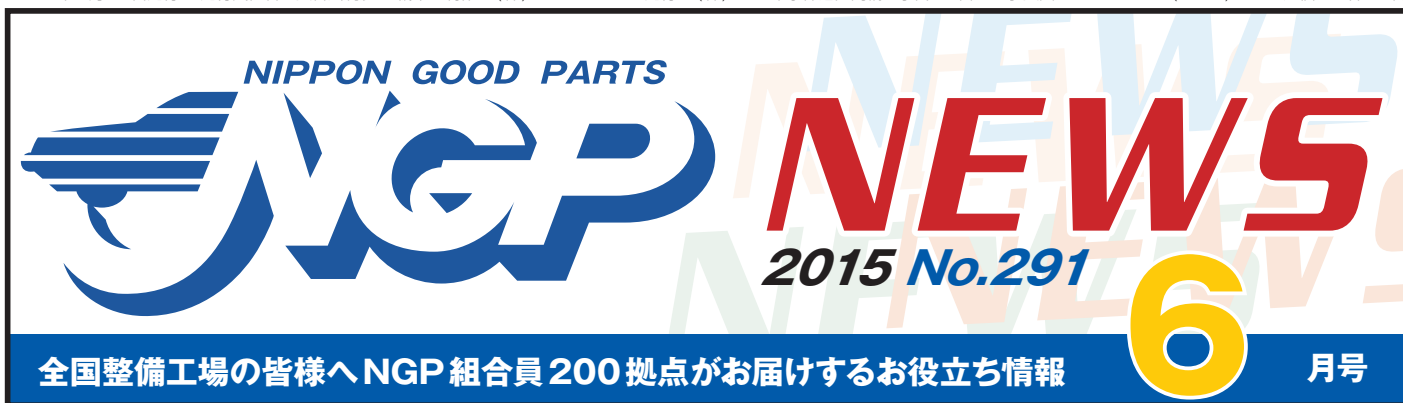




警察庁、2014年中の交通事故の発生状況を公表 交通事故発生件数が10年連続で減少 先進安全技術の普及が効果を発揮

警察庁は3月19日、2014年中の交通事故の発生状況を集計し、発表しました。

それによると、2014年中の交通事故発生件数は57万3,842件（前年比－5万5,179件）で10年連続の減少、交通事故による死者数は4,113人（同－269人）となり14年連続で減少しました。

車種別事故件数は、自家用普通乗用車（構成比44.5%）が最も多く、自家用軽乗用車（同25.1%）がそれに続き、自家用乗用車合計で全体の69.7%を占めています。

運転者の年齢層別の交通事故件数では、65歳以上が10万1,855件で最も多く、次いで40歳代（10万836件）、30歳代（9万4,343件）となりました。過去10年間の推移では全体は減少傾向ですが、65歳以上の高齢運転免許保有者層が増加したことは高齢化社会を反映しているといえます。

事故類型別（別表）では追突（構成比36.2%）が最も多く、次いで出会い頭（同24.5%）となり、車両相互事故が全体の8

割以上を占めています。一方、前年との比較では追突が－1万7,931件と最も減少していました。10年前と比較すると、事故全体で－37万8,867件と実に約4割も件数を減らしています。その理由として、先進安全技術の普及が大きく関係していることは間違いないでしょう。

国土交通省が発表した「ASV技術普及状況」によると、2006年には乗用車全体で0.3%だった衝突被害軽減ブレーキの装着率が2013年には4.7%に増加しています。さらに、軽自動車などにも採用が進む低速域衝突被害軽減ブレーキは2013年の装着率が10.8%に、ペダル踏み間違い時加速抑制装置（誤発進抑制機能）は同12.5%にまで達しました。

政府も先進安全技術の普及を後押ししており、1991年に「ASV推進計画」を発足しています。これは、産官学が連携してASV（先進安全自動車）の技術開発・実用化・普及を目指すというものです。現在は第5期に

入り、通信利用型運転支援システムや、ドライバーが異常（気絶・けいれんなど）を起こした場合に対応するシステムなどが検討されています。また、2014年度からは自動車事故対策機構が予防安全技術アセスメントを開始し、衝突被害軽減ブレーキ及び車線逸脱警報の性能を評価・公表しました。

各所で普及に向けた取り組みが進められ、衝突被害軽減ブレーキなどの先進安全技術を設定する車種は確実に増加してきました。装着による追加費用も少なくなってきており、今後も普及が進むことは間違いなさそうです。

先進安全技術の普及による事故の減少が、車体修理業界に入庫台数の減少をもたらすことは言うまでもありません。また、先進安全技術を搭載した車両を修理する際には、見た目を元通りに復元してもセンサーなどの機能部品に不具合があれば、システムが動作不良を起こし重大な事故の原因となる危険性もあります。

これは整備・修理においても同様です。現状、先進安全装備の調整作業などには、カーメーカー純正のツール類が必要なケースが多いことは事実ですが、調整や交換の必要があるか判断できるようにしておくことが重要です。入庫した車両に用いられている技術を理解し、不具合の有無を正しく判断することが求められています。

自動車リサイクル部品業界においても事故減少の影響は大きく、部品取り車両の確保が、海外流出及び仕入れ相場の高騰と合わせ、ますます困難になっています。しかしながらNGP協同組合では、これまで以上に部品取り車両の仕入れ拡大、車両1台あたりの部品生産点数拡大を強化し、今後も安価かつ高品質なリサイクル部品の提供に尽力して参ります。皆様のご協力を、心よりお願い申し上げます。

事故類型別交通事故件数の推移（各年12月末）

事故類型別		2013年	2014年	対前年比増減数
人対車両		60,465	56,491	-3,974
車両相互	正面衝突	14,097	12,563	-1,534
	追突	225,416	207,485	-17,931
	出会い頭衝突	156,086	140,766	-15,320
	追越・追抜時衝突	9,477	8,915	-562
	すれ違い時衝突	6,467	5,879	-588
	左折時衝突	28,964	25,957	-3,007
	右折時衝突	50,343	46,295	-4,048
	車両相互その他	54,526	50,227	-4,299
計		545,376	498,087	-47,289
車両単独		23,081	19,204	-3,877
列車		99	60	-39
合計		629,021	573,842	-55,179

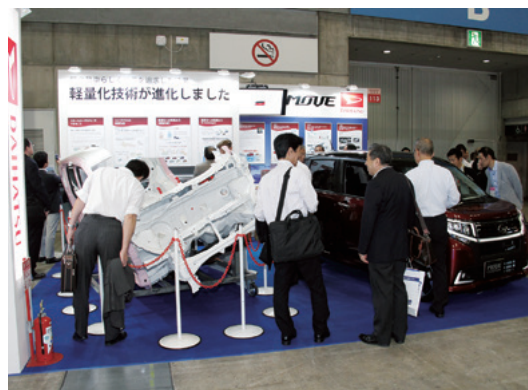
「人とくるまのテクノロジー展2015」開催 最先端の自動車技術と その搭載モデルが横浜に集結

発表間もない最新の市販車から、研究開発・実験中の技術までを一覧できる「自動車技術展 人とくるまのテクノロジー展2015」（主催＝自動車技術会）が、5月20～22日の3日間、パシフィコ横浜（横浜市西区）で開催されました。今回も自動車業界関係者や、未来の業界を担う学生を中心に、3日間合計で86,939名が訪れ、最先端の自動車技術を一瞥と真剣に見つめる姿が会場内の至る所で見られました。

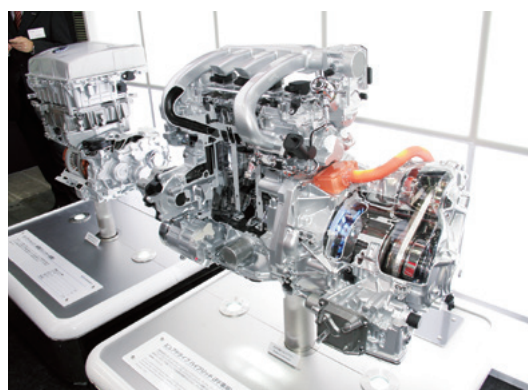
開催24回目となる今回は、国産カーメーカー、部品・素材メーカー、開発用ソフト・テスト機器メーカーなどの自動車関連企業から、前回、過去最多となる538社が出展しました。小間数も1,150小間に拡大し、過去最多を更新した昨年よりもさらに47社、78小間増えています。

国産カーメーカーは、トヨタ・ミライをはじめとしたFCV（燃料電池車）やハイブリッドカー、PHVのほか、現行最新モデルの低燃費技術や予防安全技術、軽量化技術などを披露し、部品・素材メーカーはその使用部品や生産工程などを提案しました。

また、“多様化するエネルギーとくるま～低炭素社会を拓くキーテクノロジー～”をテーマにした主催者特別企画では、FCV・EVの実車とともにFCスタックや水素ディスペンサー、V2H（Vehicle to Home）システムなどが紹介されました。さらに屋外にはカーメーカー各社の最新エコカーやスポーツカー、超小型モビリティを集めた試乗コーナーが設けられ、その軽快な走りが多くの来場者から注目を集めていました。



ダイハツ工業は、新型ムーヴと同車の軽量ボディ構造「D・モノコック」のホワイトボディを展示。5月11日の一部改良で機能進化した「スマートアシストII」も紹介していた



日産自動車は、5月13日に発売したエクストレイルハイブリッドのFF車用1モーター2クラッチ式ハイブリッドシステム及び、リーフをベースにした自動運転車試作車両を展示



トヨタ自動車は、ミライのカットボディを展示しFCVの構造を詳しく紹介したほか、新開発の1.2ℓ及び2ℓダウンサイジングターボ、1.5ℓアトキンソンサイクルエンジンなどを披露



マツダは、開催初日の5月20日に正式発表した新型ロードスターの実車とともに、同車におけるダウンサイジング、軽量化、走行性能・質感向上に向けた取り組みを公開



スズキは、新型アルトターボRSとその自動俯瞰・後退時左右確認サポート機能などを披露しつつ、5月19日に発売したスぺシアの「デュアルカメラプレーキサポート」も紹介



富士重工業は、初代「ADA」から最新世代の「アイサイト（Ver.3）」まで、ステレオカメラを用いた予防安全技術のユニットを、その進化の歴史とともに一斉展示した

(有)小諸パーツセンター、(株)アートパーツ長野が 旧車 110 台とともに NGP リサイクル部品をアピール

エコ修理ながの、「善光寺御開帳 2015 日本一の門前町大緑日 昭和の旧車・名車の集い」に参加

「エコ修理ながの」の通称名でリサイクル部品を活用した修理を提案する、長野県内の自動車修理工場団体・一般社団法人地球環境リサイクル協会は、3月29日から5月31日に長野県長野市で行われた善光寺御開帳の併催イベント「善光寺御開帳 2015 日本一の門前町大緑日 昭和の旧車・名車の集い」に参加しました。

同会に属する旧車専門店・トップラン（清沢輝彦社長、長野県松本市）の呼びかけで、同社顧客の旧車 110 台が善光寺表参道に集結し、大勢の参拝客から大きな注目を集めました。

また、4月30日には、同じく同会のメンバーでもある NGP 組合員の (有)小諸パーツセンター（井出信男社長、同県小諸市）及び (株)アートパーツ長野（鈴木修一社長、同県松本市）は同会ブースを設営しました。

スタッフは「エコ修理ながの」オリジナルジャンパーを身にまとい、「NGP エコひろば」ののぼりを立て、エンブレムや飲物等の販売、ジャンプスターターの実演、花の種の配布を行い、同会と NGP リサイクル部品を大々的に PR しました。



「NGP エコひろば」ののぼりが数多く掲げられた「エコ修理ながの」のブース

(有)小諸パーツセンターの井出社長は、「特にエンブレムの販売は非常に好評で、あっという間に完売しました。今後も同様のイベントがあればまた PR 活動を展開し、NGP リサイクル部品の認知度拡大を図りたいと思います」と、確かな手応えを感じたようです。



大好評を博したエンブレム販売コーナー

東京都足立区「地球環境フェア2015」に出展

地域密着型イベントへの参加を通じリサイクル部品を一般ユーザーへ PR

NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合（長谷川利彦理事長）は、5月30・31日に東京都足立区役所で開催された「地球環境フェア2015」に出展しました。

これは、2013年12月の「エコプロダクツ2013」で、同組合ブース内での「環境にやさしい自動車リサイクル部品」に関する紙芝居を観た、足立区環境部環境政策課の職員から同フェアへの出展要請を受けたことによるもので、今回が2回目の出展になります。

今回の環境フェアでは、特設のミニステージで同様にリサイクル部品の紙芝居が披露され、主婦や小中学生を中心とした大勢の来場客を集めることができました。また、同組合ブースでは廃車買い取りサービス「廃車王」や、FM TOKYO はじめ全国各地の FM 局で放送されている「名車ソムリエ supported by NGP 廃車王」などを PR しました。

同組合の平野泰雄・総務広報副委員長は、「地道な活動ですが、地域密着型のイベントが足立区以外にもあれば今後も積極的に出展し、一般ユーザーと直接コミュニケーションを取ることで、自動車リサイクルに対し子供にも興味を持ってもらい、次の世代につなげていきたいと考えています」と、その狙いを話しています。



紙芝居ではリサイクル部品の生産工程を詳しく紹介



NGP 協同組合の出展ブースでは廃車王のマグネット付きクリップなどを配布

NGP 今月の CO₂ 削減量



リサイクル部品利用に伴う削減効果

平成 27 年 4 月： **4,210t**



リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

平成 27 年 4 月： **19.9t**

※一般社団法人 日本自動車工業会が 1998 年に公開している自動車 LCA（ライフサイクルアセスメント）データをベースに、NGP にて 1500cc 車両の部品重量調査結果から CO₂ 削減効果参考値を算出しております。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果は NGP 協同組合独自の CO₂ 排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

第18回ハイブリッドカーセミナー開催 多様化したハイブリッドカーの技術と 作業上の注意点を実車で習得

第18回ハイブリッドカーセミナーが5月18～19日、静岡県裾野市の(株)あいおいニッセイ同和自動車研究所・東富士センターで開催されました。

同セミナーは、ハイブリッドカーやEV(電気自動車)、PHV(プラグインハイブリッド車)など、高電圧バッテリーの分解整備を行ううえで、感電事故を防ぐため労働安全衛生法で受講が義務付けられている「低圧電気取扱特別教育」を実施するもので、NGPでは2008年1月より定期的に開催しています。

今回は16名が参加し、トヨタTHS-II、ホンダIMA及び同スポーツハイブリッドi-DCD、三菱プラグインハイブリッドEVシステムなど、ハイブリッドカーやEV、PHV

各車の電気・構造に関する基礎知識と、高電圧部品の安全かつ適正な点検・脱着方法を、座学および実車を用いた実技で学びました。また、万が一感電事故が発生した際の心肺蘇生法なども、ダミー人形を使用し体得しています。

(有)田崎商店の岩田誠治さんは「ハイブリッドカーセミナーを受講する前の私の知識は、間違いだらけだったということを痛感しました。サービスプラグを外してしまえば安全という思い違いをしていたのです。事故車の取り扱いが多く危険な作業になるため、駆動用バッテリーの処置や車両の安全な動かし方、普段なかなか学習できない電気のことや救急処置なども、大変勉強になりました。こ



ハイブリッドカー各車の構造の違いを確認する受講生たち

れからはもっとハイブリッドカーが増えていく時代ですので、部品ごとの特性や保管方法、使用できるかどうかの判断基準など、生産業務以外にも活用できる知識を含め、今後の業務に役立てていきたいと思っています」と、正確な知識が安全に作業を実施するだけでなく、関連部品の販売を拡大するうえでも必要不可欠であることを学んでいます。

フロントマンSTEP UP出張研修会を開催 目標を達成し会社の利益に貢献するため 顧客に信頼されるフロントマンを目指す

これまで年1回、静岡県裾野市の(株)あいおいニッセイ同和自動車研究所・東富士センターで開催されていた「フロントマンSTEP UP研修会」が、このほど出張研修会として開催されました。

5月23日にかでる2.7北海道立道民活動センター(北海道札幌市)で開催された最初の同研修会では、NGP協同組合・北海道支部に所属する各社から8名が参加し、フロントの役割や接客対応の心構え、売上目標達成のための自己管理方法などを学びました。また、整備・修理工場のお客様から部品のご注文をいただく際の様々なケースを想定した、

電話対応のロールプレイングを実施しています。

各受講生の対応について全員で意見を出し合い、ビデオカメラで録画した自らの映像も確認することで、自身の対応について客観的な評価を得ました。さらには他の参加者の優れた点を学ぶことで、電話対応スキルを高める良い機会となりました。

参加した(株)アシスト・フクダの佐々木秀明さんは、「売上だけではなく利益の目標を設定し、またそれぞれの進捗率なども踏まえながら業務に臨むことの必要性や、電話対応における言葉遣いの奥深さなどを知り、今



ロールプレイングでは部品検索結果を見ながらその場で対応を判断

まで『これで良い』と思って対応していたことが実際にはそうではなかったことを痛感しました。この研修会で学んだことを社内でも採り入れ、より一層お客様のため、自社のため、NGPのために頑張っていきます」と、今後フロント業務に臨むうえでの心構えを新たにしています。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
東海	有限会社カーパーツコンドウ (変更後はKMI株式会社)	社名変更 番地変更	KMI株式会社 〒503-1382 岐阜県養老郡養老町船附561-1	27年5月15日

訃報

4月22日、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合前専務理事・(株)NGP前専務取締役、宮地康弘(みやちやすひろ)様がお逝去されました。

享年70歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp/

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp/